

研究の取り組みについて（まとめ）

◎ 研究主題

児童生徒一人一人が今、主体的に活動できる授業づくり
— 観点別評価の取り組みを通して —

◎今年度の取り組みについて

これまでの研究から、児童生徒がもつ力の質を高められるように、より「主体的に活動できる授業づくり」を目指して授業実践を行いました。また、児童生徒がどんな力を発揮しているのかを観点別の学習評価を通して、これまで以上に具体的に多面的に見取り、より良い授業づくりに取り組んできました。

◎ 研究実践

(1) 授業実践

小学部はたんぼぼ組（1・2年）、すみれ組（3・4年）、つくし組（5・6年）の全学級、中学部は石けん班、クラフト班、園芸班の全作業班、高等部は木工班、手織班、陶芸班の全作業班が研究授業を行いました（表1）。この研究授業のうち、小学部すみれ組（3・4年）、中学部園芸班、高等部陶芸班は、全校での授業研究会を行いました。（全校授業研究会を行った指導案は、HPに掲載しています。）

全校の授業研究会の中で、児童生徒の実態に即した具体的な目標設定や主体的な活動について話題になりました。具体的な目標設定については、児童生徒の実態を共有できるような表記があれば目標設定が適切かどうか検討できることや目標設定の理由を明確にしておくことが確認されました。また、児童生徒の主体的に活動する姿を目指す上で学習活動には必然性が必要であることや児童生徒から要求や気持ちを伝えるサインが出るような環境も大切だということが話題になりました。

(2) 観点別評価シートによる学習評価の取り組み

対象児童生徒の学習について観点別評価シートに記入し、1学期末に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点で評価をしました。その後、様式の検討や具体的に捉えた児童生徒の姿をどう授業づくりに生かしていくのか学部研究会で検討を行いました。

各学部の今年度の取り組みについての概要は以下のとおりです。

①小学部の取り組み

- ・年間指導計画で設定した単元目標と前単元の学習評価から設定した単元目標にずれが見られたことから、年間指導計画の見直しが必要になりました。そのため単元のまとめや反省を記録しながら単元設定や単元期間について検討していくことを確認しました。
- ・生活単元学習の単元数が1学期に5から6単元と多いこと、制作活動、調理活動、校外学習などと学習

（表1）授業研究会を行った授業実践

小学部	<ul style="list-style-type: none"> ○たんぼぼ組（1・2年生）遊びの指導 たんぼぼランドで遊ぼう③ ●すみれ組（3・4年生）生活単元学習 フラワーポットを作る ○つくし組（5・6年生）生活単元学習 おそば屋さんを開こう ～お世話になっている人をおもてなししよう～
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ○クラフト班 作業学習 作業Ⅲ 肴町商店街で販売しよう① ～みんなであにーわを80個を作ろう～ ○石けん班 作業学習 作業Ⅲ 肴町商店街で販売しよう① ～みんなで石けん350本を作ろう～ ●園芸班 作業学習 作業Ⅲ 肴町商店街で販売しよう① ～みんなでラベンダーポプリを100個作ろう～
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ○木工班 作業学習 附特ベンチシリーズを作って販売しよう ～7月ガンフ工房販売会に向けて～ ○手織班 作業学習 織り物製品を製作して販売しよう ～第2回ガンフ工房販売会に向けて～ ●陶芸班 作業学習 2月販売会に向けておにぎり皿を作ろう ～2月ガンフ工房販売会を成功させて 1年間を締めくくろう～

※ ●は全校授業研究会を行ったもの

(図 1) 小学部の観点別評価シート (修正版)

内容が多岐に渡ることから、1 学期末にまとめて観点別評価することが難しい実態がありました。そこで、单元ごとに3観点で評価できるような様式に修正し取り組みました。(図 1)

② 中学部の取り組み

- 作業学習 1 单元に 1 枚の「作業ノート」を作成しています。前单元までの様子、それを基にした目標を設定し、有効だった支援や学習の様子を記録したものです。その作業ノートと観点別評価シートを作成する上で記入する内容が重複する部分もあり、作成の意義があいまいになっていたため、作成手順を整理、検討しました。作業ノートを作成後、担当教師間で生徒の様子を共有してから、单元ごとに観点別評価シートに記入し、4から5ある单元をまとめて学期末に3観点で学習評価することを確認しました。

③ 高等部の取り組み

- 高等部の作業学習の单元期間は約 3 か月あり、1 学期と 2 学期をまたぐ单元があるため、1 单元ごとに 1 枚の観点別評価シートを作成することとしました。
- 高等部では支援の効果の有無や具体的な生徒の様子などを 1 週間ごとに「作業の記録」にまとめています。单元期間が約 3 か月と長いので、作業の記録を基に観点別評価シートを作成することにしました。
- 授業研究会において観点別評価シートで見取った生徒が発揮した力を学部職員で確認し、他の学習場面や生活場面でもそのような様子が見られたか、その力が生かされているのかを話題にしました。

【生活单元学習】 氏名:				
2学期の目標 (個別の指導計画より)				
单元名 期待する姿 (年間指導計画 と照し)	個別の单元目標	支 援	観 点	評 価
0.0			知識 技能 思考 判断 表現 主体的な姿	
0.0			知識 技能 思考 判断 表現 主体的な姿	
0.0			知識 技能 思考 判断 表現 主体的な姿	

单元ごとに観点別評価できるようにしました

◎ 成果と課題

児童生徒の「主体的に活動する姿」を観点別に学習評価することで児童生徒が発揮している力を明らかにし、それを生かした授業づくりを目指して取り組み、以下の成果と課題が挙げられました。

(1) 成果

- 児童生徒が発揮した力を具体的に捉え、児童生徒の良さや頑張りを整理しながら確認することができました。
- 学習状況や実態に即した目標設定と支援、授業づくり、单元づくりを意識することができました。
- 観点別評価シートをツールとし、児童生徒の姿を教師間で共有する機会を設けることができました。

(2) 課題

- 全校で研究を進めるに当たり、「主体的に活動する姿」について共有する機会があまりありませんでした。
- 複数の教師で評価していると言えない側面もあるため、客観性のある評価とするためにも評価の流れや時期など検討、確認する必要があることが分かりました。
- 单元目標のずれがあることが分かり、年間指導計画や教育課程の見直しの必要性がありました。

◎ まとめ

児童生徒が主体的に活動する姿から、発揮した力を観点別の学習評価を通して明らかにすることで児童生徒の学習状況、单元計画、授業構成、目標や支援だけでなく、年間指導計画にも目を向ける機会となりました。これは大きな成果でもあると考えています。これらの課題と成果を受け、次年度も児童生徒が自分の力を存分に発揮しながら、その質を高めていけるような「児童生徒が主体的に活動できる授業づくり」に取り組んでいきます。